

建設常任委員会行政視察（概要）

1 視察日

平成30年5月10日（木）～11日（金）

2 視察項目（視察都市）

- ・空き家バンク事業について（福岡県筑後市）
- ・桜町・花畑地区の一体的なまちづくりについて（熊本市）

3 参加委員

委員長：岩本 守、副委員長：畑中 剛

委員：米川勝利、桂 睦子、大村卓司、松本泰典、中内清孝

4 調査概要

筑後市では、平成24年度から空き家バンク制度を創設し、市内の空き家を登録、市HP等に掲載することで、登録者と利用希望者が物件に関する賃貸・売買交渉を行うことにより、市内への移住、定住の促進を図る取り組みが行われている。交渉・契約に当たっては、市の仲介行為はないが、市の登録制度という点で、交渉が安心して進められる。さらに、空き家専門相談員配置などの効果により、平成30年1月現在、45件が成約完了している。

熊本市では、熊本城の南側の桜町・花畑地区を「城と庭つづき『まちの大広間』」と位置づけ、事業規模約755億円の公と民が協働したまちづくりを展開されている。民間再開発事業としては、商業施設、ホテル、マンション、バスターミナルの再整備が進められ、これらにあわせ、道路、イベント空間としてオープンスペース、2,300席の熊本城ホールの建設等も進められている。賑わいと活力を創出する交流拠点の形成に向けた大規模なプロジェクトである。



熊本市にて

5 委員長所感

筑後市の空き家バンク事業は、個人の私有財産である空き家を社会的資源と捉え、移住あるいは定住促進につなげていく積極的な施策である。また、空き家の老朽化防止及び利活用の点でも優れた取り組みであり、本市においても筑後市の事例を参考に空き家の利活用に資するべきと感じた。

一方、熊本市における桜町・花畑地区再開発事業は、行政直接施行やPFI方式は用いず、熊本桜町再開発株式会社が担う民間主導方式でスピード感を持って取り組まれている。中心市街地全体を熊本城の大広間に見立てて、まちづくりを進めていくコンセプトの立て方や事業手法などは大いに参考になった。熊本地震から2年が経過したが、震災復興を乗り越えてのスケールの大きなまちづくりである。